

授業科目名	国語科教育法Ⅰ	教員名	中村 佳文 (実務経験のある教員)	卒業及び 免許・資格 との関係	卒業	選択
					小学校教諭	必修
科目番号	SID301	配当年次	3年前期		幼稚園教諭	選択
					保育士	選択
授業形態	演習				こども音楽療育士	
単位数	2単位				情報処理士	
科目						
施行規則に定める科目区分						
一般目標	<p>国語科教育の目標および各学年の目標・内容・系統性・評価等について理解し自らの実践に活用できるようにする。また各領域・事項における実践事例を検討し、その考え方・授業展開について学習し、実習等に向けて国語の授業実践ができる基礎基本の資質・能力を身につける。</p> <p>(1) 国語科の目標及び内容 学習指導要領に示された国語科の目標や内容を理解し、実践に活かせる能力。</p> <p>(2) 国語科の指導方法と授業設計 基礎的な学習指導方法を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と実践力を身に付ける。</p>					
到達目標	<p>(1) 国語科の目標及び内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学習指導要領における国語科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。 2) 個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。 3) 国語科の学習評価の考え方を理解している。 4) 国語科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。 <p>(2) 国語科の指導方法と授業設計</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 学習者の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。 2) 国語科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用することができる。 3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。 4) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。 					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「5. 教育実践力を身につけている」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授業の概要	<p>国語科における意義・構造を踏まえ学習者に育成すべき資質・能力を理解し、学習指導要領に示された国語科の学習内容について国語教育研究の視点から理解を深める。また指導領域ごとの学習指導方法を踏まえて、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う基礎的な方法を身に付ける。</p> <p>最初に「国語教育」と「国語科教育」の違いを認識し、その意義について理解を深める。その後、「目標」「内容」「方法」「評価」などの観点から「国語科教育」の基本となる構造を学んでいく。さらに自ら授業計画が立てられるよう、「学習者の実態把握」「単元計画」「学習指導案作成」「教材研究」「言語活動」などの観点か授業実践への足掛かりを掴む。以上のような点を構造的に整理し、後期の「国語科教育法Ⅱ」に結びつけ、さらには教育実習での授業実践に向けて基礎的な資質・能力を養っていく。</p> <p>講義はグループディスカッション・ワーク型学習とし、講義外学修においてテキストは事前に内容を理解しておくこと。その知識に基づき、講義では担当者や受講者同士の対話活動を重視し、主体的で深い思考を目指し自らが判断し表現できる力を養成する。特に模擬授業の指導案作成や授業指導への助言においては、担当者の学校現場における実務経験を活かして、実習等ですぐに活用できる実践力を養成することに重点を置く。</p>					
履修条件・注意事項	本科目を履修後に「国語科教育法Ⅱ」を履修することが望ましい。					
授業計画	<p>【第1回】国語の教育経験を相対化する 小学校時代の自らの「国語教育」経験を相対化するため、学習活動を回想しつつ疑問に思っていたことについて、その目的や意義について周囲と対話しながら検証する視点を持てるようにする。 (目標(1)-1), (2) 4), (2)-1), (3))</p> <p>【第2回】国語科教育の意義 (テキストⅠ) 「国語教育」と「国語科教育」の違いを認識し、どのような資質・能力を身につけたらよいかを知識のみならず、自らの体験から主体的に理解できるようにする。 (目標(1)-1), (4) , (2)-1))</p> <p>【第3回】国語科教育の構造 1 目標・内容 (テキストⅡ 1・2) 国語科教育の目標・学力・内容について、学習指導要領に即して構造的に理解し、その知識を活用</p>					

	<p>することで実践への糸口があることを認識する。(目標(1)-1), 2), (2)-1), 3))</p> <p>【第4回】国語教育の構造 2 方法・評価(テキストⅡ 3・4) 言語・言語活動・言語生活の構造を把握し、「主体的・対話的な深い学び」を実現するにはどうしたらよいかを実践への視点を持ちながら身につける。(目標(1)-1) 2), 4) (2)-1), 3))</p> <p>【第5回】国語科授業の計画 1 (テキストⅢ 1・2) 学習者の実態把握の視点を持ち、年間学習計画や単元指導計画を立てることができるようにする。この双方から学びを実感できる授業を構想できることを目指す。(目標(1)-1), 2), (2)-1), 3))</p> <p>【第6回】国語科授業の計画 2 (テキストⅢ 3) 国語科学習指導案の基本的な作成方法について、学習指導要領にどのように準拠したらよいかを知識のみならず、自らが作成する立場で学ぶ。(目標(1)-1) 2) 3), (2)-1), 3) 4))</p> <p>【第7回】国語科授業の計画 3 (テキストⅢ 4・5) 教材研究や教材開発の視点を学び、実際に授業をするにあたりどのような準備をしたらよいかを実践的に把握できるようにする。(目標(1)-1), 2), 3), 4), (2)-1), 2), 3), 4))</p> <p>【第8回】国語科授業の計画 4 (テキストⅢ 6・7) 国語科の学習過程と言語活動について学び、授業を活性化する方策としてどのような視点を持ってばよいかを理解する。(目標(1)-1) 2), 3), 4), (2)-1), 2) 3), 4))</p> <p>【第9回】国語科授業づくりの実際 1—指導案作成(テキストⅣ 1-1・2) 知識及び技能を育てる授業づくりにおいて、「言葉の特徴や使い方」「情報の扱い方」に関する事項について理解を深め、授業実践に応用できるようにする。(目標(1)-2), 4), (2)-1), 3), 4))</p> <p>【第10回】国語科授業づくりの実際 2—指導案作成(テキストⅣ 3) 知識及び技能を育てる授業づくりにおいて、「我が国の言語文化」に関する事項について理解を深め、授業実践に応用できるようにする。(目標(1)-2), 4), (2)-1), 3), 4))</p> <p>【第11回】国語科授業づくりの実際 3—指導案作成(テキストⅣ 2-1) 思考力・判断力・表現力等を育てる授業づくりのうち、「話すこと 聞くこと」について実際の授業過程を考案する。(目標(1)-1), 2), 3), 4), (2)-1), 2), 3), 4))</p> <p>【第12回】模擬授業演習(1) (A・Bグループ) 第11回の授業までに考案した指導過程を各グループから模擬授業形式で実施し、実践力を身につける(目標(1)-3), (2)-2), 3))</p> <p>【第13回】模擬授業演習(2) (C・Dグループ) 第11回の授業までに考案した指導過程を各グループから模擬授業形式で実施し、実践力を身につける(目標(1)-3), (2)-2), 3))</p> <p>【第14回】模擬授業演習(3) (E・Fグループ) 第11回の授業までに考案した指導過程を各グループから模擬授業形式で実施し、実践力を身につける(目標(1)-3), (2)-2), 3))</p> <p>【第15回】国語科授業の事後研究 第12回から第14回までの模擬授業について、各班が振り返りを発表し相互に授業改善に向けた対話ができるようにする。(目標(1)-1), 2), 3), 4), (2)-1), 2), 3), 4))</p> <p>【試験・第16回】詩の群読活動実践を行い対話から得られた発見をシートに書き込み、実践的な発想をする力を見る試験を実施する。</p>
授業外学修時間の確保について	<p>事前・事後学習として週4時間以上行うこと。</p> <p>事前事後に講義該当箇所のテキストを精読し講義内容について自分なりに予習と整理をし、授業の見通しと活用ができるようにしておくこと。テキスト内容については、講義中のレビューへの書き込みや対話に活用される。また模擬授業へ向けての指導案はグループ内で協力して作成し、模擬授業が実践的な内容であることを十分に考えて実践内容を精査すること。これらを授業外学習として十分な準備を行い、前期末には個人が密案として指導案を提出できるようにすること。</p>
学生に対する評価	<p>授業中のグループ対話活動のレビュー20%、指導案・模擬授業40%、期末試験40%で評価を行う。</p> <p>なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業において口頭で評価を行う ・状況に応じて課題についてメールでの指導・評価を行う
テキスト	『新たな時代の学びを創る 小学校 国語科教育研究』東洋館出版社 2019 ISBN:978-4-491-03766-0
参考書・参考資料等	『小学校学習指導要領(最新版)解説 国語編』
担当者からのメッセージ	児童が楽しく学べる国語授業づくりをともに考えていきましょう。
オフィスアワー	授業日の次の時間 毎週水曜日 8:45～9:05(講義前) ・ 10:35～10:50(講義後)
備考	<p>担当教員は、学校現場における教員(国語)としての実務経験を活かし、特に指導案作成・模擬授業についての指導に十分な経験を活かす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メールアドレスについては、授業中に周知する。